

授業の記録



【算数】「かたちづくり」(本時 5/6)

筆者が参観した山口県山口市立上郷小学校1年1組川尻学級の算数の授業の流れの記録である。
(2017年11月22日)

授業構想(ねらいや板書計画)

「教授学」解説は、30・31ページ

1 主眼

色板の操作を通して、同じ枚数でも別の新しい形ができることに気づく。

2 準備

- 色板 (掲示用・児童用)
- マグネット版 (児童)
- ヒントプリント

3 評価

元の形の色板を裏返ししたり、回したり、ずらしたりすることで新しい形ができることに気づくことができたか。

4 板書計画

11/22 かたちづくり
いろいろた4まいで
つくったかたち

【チャレンジ】へんしんじまへいこう!

めあて もとのかたちをあたらしいかたちにへんしんさせるには、いろいろたをどのようにごかしたらよいか。

まとめ もとのかたちから「うらがえす」「まわす」「ずらす」と、べつのかたちができる。

いろいろつって、なまえをつけよう

うらがえすと「くるり」
まわすと「ぐるん」
ずらすと「すべえる」

本時の流れ

【チャイム】 【授業の始まり】

当番:(はきはきした声で) 気をつけ。「なぎレッチ!」

子どもたち: 1, 2, 3。(背筋を伸ばし、よい姿勢を意識する)

当番: 今から算数の学習を始めます。

子どもたち: はい、お願いします。

T: これまでの学習を思い出してください。これまで、「いろいろな島に探検に行こう」と、1枚島、2枚島、4枚島、かけ島などにチャレンジしてきました。【前時復習】

T: 今日、使うのは4枚。今までも4枚にはチャレンジしてきましたが、今日はこれを変身させようと思います。だから、「へんしんじまへいこう!」です。

C: 形が変身するんだよ。

T: めあては、書いてきました。(黒板に貼る)一緒に読んでください。【本時のめあて】

C: (一斉に音読)「もとのかたちをあたらしいかたちにへんしんさせるには、いろいろたをどのようにごかしたらよいか、考えよう」

T: 約束は、「同じ長さのところを、ぴったり合わせること。動かすのは、1~2枚にすること」です。

T: こういう(元の形)のを、作れるかな?

T: まず最初に、何を变身させるかというところ……。(新しい形を黒板に貼る。子どもたちから「手紙?」の声)

T: このような形に変身させてほしいのですが、まずは自分でやってみてください。(一人学び3分)

T: どのように変身させたか、説明してくれる人?

C: (E児) 前に出て説明します。元の形をこうやって、上にあげると変身できます。(他の子どもたち「分かりました」の声)

T: 今、誰も触っていないのがすごいね。

C: (K児) 前に出て説明します。逆上がりみたいに、ぐるんとひっくり返せば変身できます。

T: なるほど、それなら最初の変身は何と言ったらいい?

C: 「くるり」かな。

T: 変身の2番目(黒板に変身②を貼る)は、これです。この形が作れるかな?(子どもたちから「難しそう」の声)

T: 15秒で変身できるかな?(子どもたちから「いいよ」の声)

C: できた!(すらすらとできた、などの声が次々にあがる)

T: あまり、できた! できた! というところ、できていないお友達が焦るから、言わないであげてね。

T: そろそろ隣の人と交流しましょう。思いつかなかった人も、友達のやり方を聞いてみてね。

T: どのように変身させたか、説明してくれる人? 分かりやすいように「へんしん①」とは色を変えます。

C: (K児) 前で説明します。滑り台をすべるように下にずらすと変身できます。(★子どもたち「すべえる」と名づける。)

C: (Y児) 聞いてください。こうやって、下になっていた三角を上にあげると変身できます。(★子どもたち「あがある」と名づける。)

T: みんなが説明してくれたのをまとめると、「くるり、ぐるん、すべえる、あがある」などしたら、元の形が変化(板書)ということが分かりました。

T: 元の形を3つ作って、今度は自由に変身させてもらおうと思います。2分でできるかな。

T: それでは、手は置いて。膝の上。どんな形に変身できたか発表してください。

C: 「横の矢印」「りほん」「地下鉄」「せみ」。(いろいろなアイデアが出る)

C: 同じ色板からいろいろな形に変身できて、面白かったです。

C: 変身したときに、みんなが「すべえる」とか「あがある」とか言って、楽しい学習になりました。

T: たくさんの先生方に囲まれて見られていたのに、色板をドンドン動かしたり、発表もたくさんできたりして素晴らしかったです。【振り返り】

※上郷小のシンボルの「なぎの木」と、「ストレッチ」を合わせた独特の言葉。

達人に聞く! お悩み処方箋



3つの悩み 若手教師の学年始めの

- ☑ 遅刻
- ☑ 私語
- ☑ 忘れ物

共通点

- ◆ 学習内容に関わる悩みではない。
- ◆ 授業の始まりの部分での悩みであって、これを克服しないことには、学習内容には届かない。
- ◆ 日直や当番の合図によって授業が始まるが、そのときの日直(当番)の合図と、他の子どもたちの応答が、実は「対話の授業」のスタートでもある。

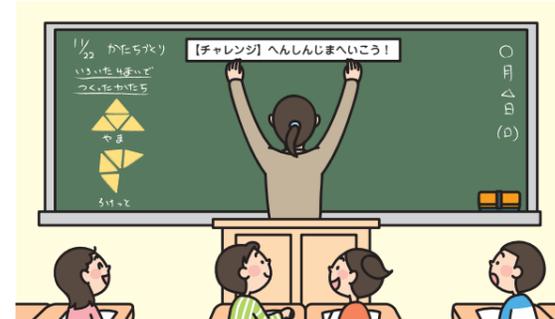
2 「私語」

「私語」とは、教師の指示や、日直(あるいは当番や係)の働きによって、どうにか授業が開始されても、すぐに子どもたちの勝手気ままな話し声(私語)に妨害されて、学習が成立しない状態である。

左に示した山口市立上郷小学校の川尻学級では、授業始まりの挨拶(当番と学級の子どもたちの対話活動)が終わると、その直後から、本時の学習活動に直結する教師の「復習」の言葉が続く。

「これまでの学習を思い出してください。これまで、「いろいろな島に探検に行こう」と1枚島、2枚島、4枚島、かけ島などにチャレンジしてきました。」

これらの教師の言葉は、学習内容そのものに関する指導の言葉なのである。教師からの「こちらを見て」「静かに」などの注意や、子どもの逸脱の動きもいっさい見られない。



*授業の始めに、教師が子どもたちに背を向けて本時の「チャレンジ」や「めあて」を板書するのではなく、大きな紙に書いてくる。授業の始めに、全員で「めあて」を音読する。そのあと、子どもたちはノートに視写する。その間に、教師は赤ペンを持って「この字は、上手!」などと机間指導をすることである。

1 「遅刻」

ここでの「遅刻」とは、授業開始の定刻になっても、授業が始まらないことである。授業開始を告げるチャイムや教室の時計を、子どもも教師も意識することがなく、遊び時間なのか授業なのか、けじめのつかない状態である。簡単に賑やかで、騒がしい学級になる。

しかし、左の1年1組川尻学級の授業記録では、チャイムの音が聞こえてくると、すぐに当番がきはきとした声で、「気をつけ。なぎレッチ!」と声をかける。すると、子どもたち全員で「1, 2, 3」と声を出しながら、簡単なストレッチを行う。

そのあと、当番が「今から算数の学習を始めます。」と呼びかける。すると、子どもたち全員がきはきとした声で「はい、お願いします。」と応答する。

その直後に教師は、「これまでの学習を思い出してください。」と、前時の復習に入り、私語が始まったり学習から逸脱したりすることはない。

前ページの記録のように、授業の最初から当番と他の子どもの「呼びかけ」と「応答」の活動が毎時繰り返される。その直後から、学習内容をめぐる教師と子どもたちの対話的な活動が始まるのである。

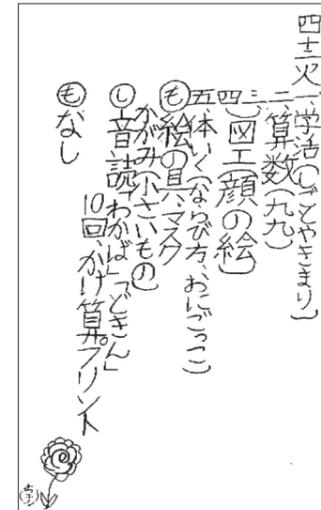
3 「忘れ物」

この「忘れ物」とは、学習に必要な用具や服装などがそろっていないがゆえに、十分な授業参加ができない子どもがいることである。

この「忘れ物」は、子どもたちが家を出発するとき、すでに発生している。しかし、発覚するのは授業場面である。この「忘れ物」があると、授業での学習が中断され、横道にそれてしまうことになる。

この「忘れ物」を防ぎ、なくす手立ては、毎日の「帰りの会」での連絡帳(生活ノート)の指導である。翌日の時間割や準備物、宿題などを書くノートが準備されるとよい。毎日の帰りの会で、確実に視写することから指導を始める。毎日約80字の視写学習にもなる。

下に示す「連絡帳」は、S児の第3学年1日目のものである。



泉原昭徳「体育授業のためのやさしい教授学」大修館2012.112頁